

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3891400073
法人名	株 だんだん
事業所名	グループホーム つるかめ
所在地	西予市野村町野村2-109-1
自己評価作成日	平成25年11月20日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成25年12月5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

城川町との交流も多く田舎町の生活が歴史の中で流れ自然にさからわずノンビリと生きてゆける。施設には門扉もなくいつでも自由に出かける事もある野菜の育て方を教わったり、育った野菜も頂き交流も自然に出来る。地域の子供の亥の子にも庭まできて頂きました。開設して間もない間柄ですが地域の応援は心強い。職員は定期的に専門講師の指導をうけ利用者が1日の生活を決めて動く、職員も利用者の笑顔の出る介護をめざしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設時には、近所の方にあいさつに回られた。事業所見学会には多くの地域の方が来られ、設備等を見て感心されたり、「きれいね」と感想をいただいたようだ。9月には、「第一回つどい」行事として観月祭を開催された。近所の方にも案内して、10名ほどの方の参加があり、一緒に地域の子どもの踊りや琴演奏を楽しまれた。隣接する畑の方が野菜をおすそ分けしてくださったり、又、調査訪問時には、隣家の方にいただいた菊の花を玄関に飾っておられた。
利用者の方からの提案で、般若心経を唱える時間を持っておられる。午前・午後、一日2回、玄関のスペースに集まり、お釈迦様の掛け軸とろうそく型のライトを灯し、お経のCDを流しながら唱えておられ、利用者の心穏やかな暮らしにつながっているようだ。
外部講師からの提案もあり、居間のホワイトボードには、利用者の名前と時系列の表を作り、「般若心経」「入浴」「受診」等、一日の過ごし方の表を作っておられる。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目: 23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目: 9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目: 18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目: 2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目: 38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目: 4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目: 36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目: 11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目: 49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目: 30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目: 28)		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 グループホーム つるかめ

(ユニット名) かめ

記入者(管理者)

氏名 古田 康子

評価完了日

25 年11月20日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
理念に基づく運営				
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所 理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有 して実践につなげている	(自己評価) 理念に基き、利用者に自分の日課をその日に決めて頂き、自主的に落ち着いて生活を実感して頂くよう支援。通り係に立ち寄り声掛け頂いたり教えて頂く。地域福祉や医療と常に連携し家族にも安心できる施設を目視します。	今後さらに、チーム一丸となって利用者の暮らしを支えていくためにも、利用者にかかわる方達とも理念を共有できるような取り組みをすすめていかれてほしい。
			(外部評価) 法人代表者は、「選択する自由と安心できる生活を送れる」ように理念をつくり、開設時には「開放的なホームを作りたい」等、職員に思いを話された。理念は、玄関に掲示されており、又、パンフレットにも示されている。管理者は、日々の中で職員に、「利用者一人ひとりが生活を選択できるような支援」の大切さを話し、意識して取り組めるよう導いておられる。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 観月会、七夕様などイベントや地域子供達の訪問でお祭り、亥の子、お琴演奏と交流や握手なして身近で多くの方にせつすることが出来る。	管理者は今後、地域に向けて事業所便りを作り、銀行や病院にも置かせてもらいたいと考えておられた。今後さらに、地域の方達と知り合えるような機会を積極的に作り、地域との関係作りに取り組みたい。運営推進会議等も活かし、いろいろな方に事業所のことを知っていただき、理解・協力者を増やしていかれてほしい。
			(外部評価) 開設時には、近所の方にあいさつに回られた。事業所見学会には多くの地域の方が来られ、設備等をみて感心されたり、「きれいね」と感想をいただいたようだ。9月には、「第一回つどい」行事として観月祭を開催された。近所の方にも案内して、10名ほどの方の参加があり、一緒に地域の子供達の踊りや琴演奏を楽しまれた。隣接する畑の方が野菜をおすそ分けしてくださったり、又、調査訪問時には、隣家の方にいただいた菊の花を玄関に飾っておられた。管理者は、「地域の方が気楽にお茶を飲み立ち寄ってくれるような事業所を作りたい」と考えておられる。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 開設当初にあたっては地域の方に来ていただき、認知症の専門家を招き病気に対する対応を学ぶ。施設内においても職員の研修会を実施し技術や知識をまなんで実践している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>運営推進会議はまだ3回目ですが、事業所の力はまだまだ出せませんが地域の方から利用者さんに呼びかけて頂いたり、運営推進委員の方から非常食の試食会や祭り行事の呼びかけを頂いています。</p>	
			<p>(外部評価)</p> <p>会議には、区長や地区の組長の方、民生委員、利用者やご家族等が参加されている。会議では、事業所の利用状況を報告されたり、昼食の時間に合わせて会議を行い、備蓄している非常食の試食会を行ったこともある。管理者は、会議を「話すだけの会議ではなく、メンバーに参加、体験してもらえよう会議にしたい」と考えておられた。</p>	
5	4	<p>市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>開所して間がないので地域全体の方に指導支援を頂いています。家族の希望を尊重し市の担当者など情報を交換しながら、各病院事業者との連絡をとり利用者の安全確保につとめる。</p>	
			<p>(外部評価)</p> <p>運営推進会議を捉えて、事業所の状況を知ってもらったり、運営等について質問しながら、取組みをすすめておられる。</p>	
6	5	<p>身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>どこからでも外出が出来るよう門扉もないように建築されています。そんな時は常時に人数確認が必要です。本人の散歩も自由です。常に周囲の職員が話し合い拘束や虐待の防止に努めます。</p>	
			<p>(外部評価)</p> <p>玄関は自由に出入りできるようになっており、調査訪問時には、ひとりで散歩に出かける利用者の様子がみられた。居間からは出かけていかれる様子が見え、いつものコースのようだと見守るようにされている。利用者の落ち着いた状態や、荷物をまとめるような様子が見られた時に出かけて行く場合は、利用者の様子を見守りながら、付き添うようにされている。ベッドからの立ち上がり時、転倒の心配がある方には柵に鈴を付けたり、足元に滑り止めマットを敷いて対応されており、中には、センサーを付けている方もあり、音が鳴ると職員が居室の様子を見に行くようにされている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 開所時に専門家を招き虐待防等の指導を受ける。その後も機会あるたび勉強会や職員会で学んでいます、又、発生までには検討し充分に話し合う。	
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 開所前の研修や外部での研修、経験者の参考意見を聞き権利擁護などの説明を聞きました、今後は機会があれば対応出来る職員の力を身につけてゆきたい。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時に家族に説明してますが、解約には入院や死亡などで止むおえない場合と、個人的理由の発生があり解約等には出来るだけトラブルのないよう規定を基に問題解決をし両者が納得できるよう話あう。	
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 家族の面会時に遠慮なく意見、感想をいただき常にコミュニケーションを持つ。担当者は要望や利用者の状態を連絡し毎月の報告書も写真コメントで細かい事も理解頂く。 (外部評価) ご家族の来訪時には、居室でゆっくりお話ができるように、職員は、お茶をお出しして気配りされている。又、少しでも長い時間利用者とお過ごしてもらいたいという思いを込めて、食事時間にかかるような時には、ご家族も一緒に食事できるように誘っておられる。ご家族は、おやつを差し入れして下さったり、利用者が居間に集い過ごされる様子を見て、「あったかい雰囲気だね」と感想を話されるようだ。9月から、毎月のご家族への送付書類の中に、利用者個々の担当職員からの利用者の近況報告書を同封することを始めておられる。管理者は今後、家族会を行い、ご家族の意見等もお聞きしながら取り組んでいきたいと考えておられた。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 定例、臨時の職員会、勉強会等等で管理者、施設長の方針や現状の改善点等を報告してもらい意見を求められます。いつでも疑問点は詳細に教えて頂き前向きな改善策を見つける機会になる。	管理者は、職員のケアの技術の向上を課題に感じておられる。講師を招き定期的に研修等も行っておられるが、今後は、職員が外部研修等も受講できるよう取り組みたいと考えておられる。職員のチームワーク作りからも、ケアの質向上を目指していかれてほしい。
			(外部評価) 自己評価は、職員で項目を分担して取り組まれた。介護経験の少ない職員も複数おられるが、管理者は、自己評価をまとめる際、「職員が利用者の立場で考えることが少しずつできてきている」ことを感じられたようだ。管理者は、職員に意見や提案を出してほしいことを伝え、ソファやいすの配置等も一緒に考えながら、利用者の暮らしの環境作りに取り組まれている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 希望休や勤務形態も希望が出せる、仕事の遣り甲斐として利用者に真剣に向かい職員が技術や能力を伸ばせるよう研修などで身に付け安心してサービスの提供が出来る。	
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 連絡協議会の研修や自主的な外部からの講師に講義や実務研修を実施、毎日の仕事の中で実践できる職員の育成をしています。	
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) GHの連絡協議会の研修や社会福祉協会などの研修には積極的に参加して地域の事業者との交流などをする。	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 入所前には自宅に出向き生活、機能障害、生活歴、病気などを細かく聞き、施設生活に不安がないよう伝える、本人が納得して入所してもらう。生活に慣れるまでは声掛け見守り等を多くできるよう申し送り、家族連絡を丁寧にする。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>本人はもとより家族の協力が無いと施設の生活に慣れてゆかないので、入所希望の理由や介護の困難等を真剣にお聞きする。不安が減少してゆくよう説明は誠意をもっておこたえし、入所後の家族の協力も依頼する。</p>	
17		<p>初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>今の生活上の障害は何か？施設のサービス内容を説明し障害の解決と利用者にとって施設生活のプラス部分を一緒に探しサービスにつなぐ。</p>	
18		<p>本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>職員には、事前に利用者の状況を説明して、入所に当たり利用者の安心できる環境を作り言葉かけ、生きる意欲の出る介護をプランに入れ、利用者との関わり、施設場所や自分の役割を持ちこくりと人との関係広げる支援をする。</p>	
19		<p>本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>其々の家族構成に特徴があり一概には説明できないがその家族にとってベストな支援を話あいながら進める。基本は家族の協力が無いと施設生活に喜びを見いだせない。利用者にとって家族の支えが大切な事を十分に説明して納得頂く。</p>	
20	8	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>入所前訪問で生活歴などを聞き、入所に至っても保持される人間性や欲求を継続できる様に可能な事を探し人間関係も継続できるように地元の出来事の会話を伝える、使い慣れたの道具の持ち込みも進めてみる。</p> <p>(外部評価)</p> <p>職員の提案から室内で「第一回運動会」を開催された際には、準備時、利用者や玉入れの玉等を手作りしながら、それぞれが思い出話をされたようだ。利用者のお話の中で職員は、「昔の運動会のうた」のを知り、当日は歌を知っている利用者が歌って開会をされたようだ。毎月ご家族に送付する担当職員からの近況報告書には、写真も採り入れておられ、ご家族に利用者の表情等をみていただき、きずなをさらに深めていただきたいと考えておられる。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 全員で祝う誕生会や外出に出る。所内のイベントで他ユニットの利用者と交流やリハビリ、折り紙などを一緒にする。所内で体操、歌、ゲーム、般若心経も1日2回みんなで唱える。	
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 家族には近況について機会あるごと(小さな町なので)近況を教えて頂く、開設期間が少ないので退所者は少ないが面会に行く。	
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 毎日の申し送りや、定例職員会で個人のカンファレンスを行い日常の新問題の発生等について情報の共有と新しい問題解決を全職員や家族で進める。本人が一番生活し良い環境を作る。 (外部評価) 利用者の方からの提案で、般若心経を唱える時間を持ってもらえる。午前・午後、一日2回、玄関のスペースに集まり、お釈迦様の掛け軸とろうそく型のライトを灯し、お経のCDを流しながら唱えておられ、利用者の心穏やかな暮らしにつながっているようだ。又、歌がお好きな利用者が多く、事業所に歌本を用意して歌って楽しめるように支援されている。入居後、「帰りたい」気持ちが強いので、ご自宅での暮らしに戻られたが、暮らしに難しさもあり、再度入居に至ったようなケースもある。2ヶ月に1回はご自宅に戻れるよう、ご本人はご家族と約束をされているようだ。	事業所は、利用者が選択しながら生活できるような支援に力を入れて取り組もうとされている。職員が日々の中から知り得た情報を集められるような仕組みを作り、介護計画につなげて利用者の暮らしの希望に沿った支援をすすめていかれてほしい。
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 初回訪問時に情報収集に努め、生活歴を生かせるように入所前に職員に周知頂く、入所後も会話や生活の中で今までの人間関係を継続するよう職員間で情報の交換をする。家族にも協力頂く。	
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 毎朝、利用者の1日の自分の予定と一緒に考えてボードに張り付ける。自分で要望の出せない方は職員と相談してきめる、利用者全員の行動が一面で見れる。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	(自己評価)	
			<p>月1回の定期カンファレンスを行い利用者の現状を話し合い支援、介護方を話し合う、日々の記録も対象にプラン作成し活用している。家族には日常生活を話し実情も理解して頂きプラン変更意見に聞く。</p>	
			(外部評価)	
			<p>利用者やご家族にケア等の希望をお聞きし、カンファレンス時に職員で話し合い、計画作成担当者が介護計画を作成されている。外部講師からの提案もあり、居間のホワイトボードには、利用者の名前と時系列の表を作り、「般若心経」「入浴」「受診」等、一日の過ごし方の表を作っておられる。ゆくゆくはボードを使って、利用者と一緒に一日の過ごし方を相談して決めたいと話しておられた。</p>	
27		<p>個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	(自己評価)	
			<p>申し送りや別紙の記録には、勤務者全員が目をしに周知するようにしている、カンファレンス時には介助法なども提案できる。体調管理表、入浴等の一覧表を活用して次のプラの参考にする。</p>	
			(自己評価)	
		<p>一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>職員間で話が出たら管理者など相談し対応の仕方を話し合う、新たな利用者の能力が見つかったら生かせ方を提案する。(手仕事等)</p>	
29		<p>地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	(自己評価)	
			<p>介護情報や地域連携の会議には出席したり、広報誌等で活用できる地域資源を探し地方祭りなおには参加する。(ボランティア等)他者とのふれあいの場を利用者と共に楽しむ。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 入所前からの医療関係の継続や新たな医療が必要になったら症状に対応できる医療機関の変更も対応する。家族面会時、電話で直接確認したり本人確認の上、同意で支援している。	
			(外部評価) 協力医への受診を支援されている。調査訪問時の昼食中、様子がいつもと違う状態の利用者があり、協力医に電話し受診に出かけていかれる様子がみられた。ご家族にも連絡して一緒に付き添われたようだ。	
31		看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価) 異変に気づいた時はすぐに報告している記録や写真にのこしている、緊急連絡表に従って連絡対応法を支持してもらう。伝達事項も記録などを活用し事前のバイタルなどを伝える。いつでも即対応して頂き安心して仕事ができる。	
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	(自己評価) 隔日で医療機関を訪ね、本人の様子確認を行う。又、退院時はカンファレンスを行い退院後のリハビリ等の支援法も伺う。看護師により随時に病状の様子を報告する。	
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 施設内に家族の宿泊できるよう常時に準備しており家族様の希望に沿うよういしています。開設期間が短いので看取りまでのマニュアルはできてないが今後は看取り介護の実施に向け準備中です。	
			(外部評価) 事業所では、利用者やご家族の希望があれば、看取りまで支援したいと考えておられ、遠方に住むご家族に泊まってもらえるように、和室も用意されている。現在は、まだ入居間もないため、利用者・ご家族に終末期の希望をうかがうような取り組みは行っていないが、今後、事業所の暮らしに慣れ、よく知っていただいてから、希望をお聞きしたいと話しておられた。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価)	
			所内研修会などで看護師などから研修を受けている。開所前に消防署による救急救命の講習を受け、マニュアルは常時目につく所にはってある。	
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価)	
			月に1回は施設内訓練を実施し、消防署職員による避難訓練の指導を受けている、地域の方にも避難訓練の参加を頂く。	
			(外部評価)	
玄関にAED(自動体外式除細動器)を設置されており、職員は開設前に使用方法等の講習を受けておられる。11月の運営推進会議時、非常食の試食会を行った際には、消防署や地域の消防団の方にも来ていただき、事業所の見取り図や設備をみていただいた。職員の喫煙場所を決めておられる。				
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価)	
			開所前から専門家の指導をうけたり、警語を使いユックリ丁寧に話している。個人の情報を把握しながら生活歴を参考に利用者の誇りや実績をたたえ言葉で表現するように心がける。	
			(外部評価)	
食事にあまり関心を示さない利用者がおられたが、職員と畑にきゅうりを収穫に行かれた時には、利用者が自ら、「包丁はあるかな」と言われ、きゅうりをご自分で乱切りして食べられたようなこともあったようだ。調査訪問時には、ご本人が希望されるようで、寝間着で過ごす利用者が複数おられた。職員の利用者への対応等については、理念にも沿って時々点検するような仕組みを作ってはどうだろうか。				
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価)	
			ホワイトボードにて日々の予定を立てるので本人にやりたい事を選択してもらい伺いながら日程を決める、自己決定できない方には一緒に考える。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、 一人ひとりのペースを大切に、その日をどのよ うに過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 今出来る機能や過去の趣味等を生かせるよう日常生活を観 察しながら興味のある手作業など準備し進めてみる。野菜作りなど	
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよ うに支援している	(自己評価) 若いときの職業などを聞いたり、起床時に好みだったカラー などを一緒に選択する、介助員のセンスも磨くようにする。清 潔感を大切にする。	
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好 みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に 準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 好みや病状、個人の摂取能力により お一人様メニュー の 変更もあり、日常の食べ切り量を考慮し変更する。食器も持 ち込みや介護食器で自分の手で食べるようにしている。テー ブルの配置も重視している。	
			(外部評価) 現在は、その日食事を作る担当職員が献立を立て作るよ うになっており、利用者の希望を聞く機会はあまり設けておら れないようだ。火・木・土曜日は魚屋から新鮮な魚が届くよ うになっている。魚があまり好きでない利用者もおられたが、食 べるようになった方もいるようだ。ユニットごとに献立が違 い、お嫌いなメニューの折りには、別ユニットで分けてもら う等して代替えされている。調査訪問時には、昼食前に口腔 体操を行っておられた。ご夫婦で隣同士に座り、奥さんがご 主人に声をかけながら食事される様子がみられた。ご自分の 食器を下膳されたり、洗い物をする利用者や、ユニットによ ってはみな食器をワゴンにまとめて下膳する利用者の様子も みられた。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じ て確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣 に応じた支援をしている	(自己評価) 食事摂取の記録や身体状況を申し送りなどで検討し、不足 分を補う代用品を提供したり通院時に医師のアドバイスなど を話し合う。家族の持ち込み食品も大切にする。	
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、 一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔 ケアをしている	(自己評価) 毎食後の口腔ケアは自立できる人、その他の要介護者には 一部介助している。義歯の洗浄も週一を行い、食事のとり方 も観察している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)	
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価)	<p>排泄はチェック表を活用しながら健康管理の基準にしている、介護記録や身体機能、認知等を総合してベストな排泄介護を話し合う、気持ちよく排泄出来る幸せを目指す。</p> <p>トイレにはユニット名のイラストを貼って目印にしているところもあった。トイレの戸は三枚扉になっており、両面開くようになっているが、片面は少し透かせて、ひとりでトイレを使用する方を職員がそっと見守る時に使用されている。</p>	
			(外部評価)		
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価)	<p>医者と連携し薬に頼らない排泄を看護師と相談している。食事、水分体調の変化を常に記録と申し送りで対策を検討している。</p>	
			(外部評価)		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価)	<p>記録票を活用し医者意見、身体障害などのその時の状況に合わせ入浴して頂く、それぞれの入浴介助法は異なり重度はマニュアルで自立者は守りなどし、身体観察などもする。</p> <p>現在は、毎日2~3名ずつで、利用者は週に2回程度入浴できるよう支援されている。利用者の状態によっては、シャワー浴で対応している方もいる。職員は、利用者とおしゃべりしてゆっくり楽しんでもらえるよう支援されている。</p>	
			(外部評価)		
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価)	<p>季節により時間、寝具、排泄リズム、体調の変化に応じて対応する、特に病状の不安定時は常時に見守りの必要とする。他の方は昼間の活動を影響するので日中のリハビリの声掛けする。時には病院から出ている眠剤の服用もある。</p>	
			(外部評価)		

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 医者、薬局の薬の説明書で病気と薬を理解しながら、正しく間違いなく適切な服薬を支援している、薬の内容や看護師より説明を受け理解して介助している。薬の変更などは申し送りや記録で確認しておく。	
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 利用者さんの洗濯物たたみなど日常生活の中の役割に職員は感謝の気持ちを伝える。気分転換の買い物など外出活動にも取り組むよう努めている週1回の飲酒も楽しめる。	
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 事業所の周辺に散歩に出かけたり安全に外出ができる様支援している。誕生日会に外出スイーツも行った。全員で外出する、外出の再度の希望もあります。買い物外出も声掛けして誘う。 (外部評価) 近くのお地藏様や観音様を歩いてお参りに行けるよう支援されたり、駐車場のとなりにある菜園に野菜を収穫に行かれることもある。利用者の希望で4名の方が町内で開催される「乙亥大相撲」を見に行かれ、とてもよい笑顔で戻って来られたようだ。今後、敷地の砂利敷きの部分を一部舗装する予定があり、車いすを使う方も通りやすくなるようだ。ホワイトファームのレストランで、利用者の誕生会を行ったこともある。利用者は、好きなケーキを選び、お茶を楽しみながらお祝いされた。	さらに、利用者と地域とのつながり作りに向けて、外出するような機会を積極的に作っていかれてほしい。外出がお好きな利用者もおられ、ご家族や地域の方達の協力も得ながら、楽しみ作りや気分転換の機会作り等も支援していかれてほしい。
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) お金をもつ、使う事の理解が出来る利用者の希望に応じて職員と外出し自分で支払を支援をしている。節約家ですべてが金と思いこむ人もオシャレした時は嬉々とした表情が見えるので、利用者を生かせる買い物の支援もある。	
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 利用者の日頃の生活状況・健康状態など家族様あてにお便りで連絡し理解して頂く、家族からの電話が楽しみな方は電話をかけてあげて話される。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>快適に生活して頂けるよう掃除や室温のコントロールし壁に季節感を出すよう飾り付けを一緒にする。季節により日差しや風が居心地をよくする。窓辺の作物の収穫や自分で育てる楽しみをもって頂く。</p> <p>(外部評価)</p> <p>玄関前のポーチには車を付けることができ、雨の日も利用者がぬれることなく車の乗り降りができるようになっている。敷地内には、近々デイサービスが開設されるようになっている。玄関には、たたみ貼りの長椅子があり、調査訪問時には、クリスマスのタペストリーと隣り合わせでお釈迦様の掛け軸をかけておられ、りんの代わりに風鈴を鳴らすように準備されていた。居室入口や共用空間の扉は三枚扉の引き戸で、開口が広く取れるようになっている。台所と浴室が近い造りになっている。建物の周りを回れるようになっている。</p>	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>玄関先に(内外)ベンチやソファを配置し気分転換できる、般若心経にも希望者は1日2回玄関ホールで唱え利用者間の交流や神様の信仰心で落ち着かれる</p>	
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>衣類等の区別は利用者と一緒に整理し家具が危険になる場合はキッチンと説明して持ち帰って頂くようにしている。持ち込みタンス等もあり写真等で家族との繋がりを感じて頂く。</p> <p>(外部評価)</p> <p>居室の窓は、座って外を眺められるよう低めに造ってあり、山々の様子が見えることを利用者は喜んでおられる。ご家族との写真や、以前利用されていた介護施設でプレゼントされた写真を飾っている居室もみられた。夫婦で使用する居室には、1部屋にはベッド、もう一部屋はテレビ等をみながら過ごす部屋を作っておられる。ベッドやタンス等は備え付けとなっており、寝具はリースを使用されている。</p>	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価)</p> <p>平屋建でユニット間の交流がいつでも自由に出来る、手すりの設置で残存能力を生かし居室や廊下の行動が自由に出来る見守り。専門講師のリハビリ訓練を学び利用者の機能維持に訓練している。</p>	